



# 災害から地域を守る 自主防災組織結成に向けて

災害は、忘れたころにやってくるというように、日ごろからの備えが重要です。いざというときに備えて、あなたの家や地域の防災対策は万全ですか。災害が発生したとき、あなたはどのように動きますか。

「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という連携意識のもと、防災対策をもう一度見直してみましょう。

## ■写真

梅雨前線による豪雨時の  
市内森川河口付近の様子  
平成17年7月3日撮影

## 自主防災組織とは？

自主防災組織とは、地域住民が自主的に連帯して、防災活動を行う組織のことをいいます。

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、マグニチュード7.2、震度7の激しい揺れで、生活を支えるライフラインが途絶え、火災が発生しても消防車が駆けつけられないような状況に陥りました。そのとき、近所の住民がバケツリレーで消火活動を行ったり、建物の下敷きになった人を救出したりしました。救出された人たちの6割が近所の住民によって救出されたという報告もあり、この活動が遅ければ、さらなる犠牲者が出たといわれています。

さらに、国の地震調査委員会は、東海から四国にかけての海域を震源とする東南海・南海地震の発生確率を、今後30年以内の発生確率は40%程度、50年以内の発生確率は80%程度で、その規模はマグニチュード8.4前後と推定しています。

こうした状況を踏まえて、今注目されているのが、自主防災組織の活動なのです。

## 自主防災組織はなぜ必要か？

これから梅雨期に入り、私たちの周りでは、雨災害が発生しやすい時期を迎えます。また、大規模地震や大規模な火災など思わぬ災害は、いつでもどこで発生するかわかりません。

災害の発生時には、市や防災関係機関は、連携して防災活動に取り組みます。しかし、状況により、活動が妨げられることもあります。特に大規模地震では、次のような条件が重なって、十分な応急活動ができないことがあります。

○電話が不通になり、被害状況などの情報収集が困難となる

○道路や橋の損壊、建物の倒壊などにより道路交通が阻害される

○同時に各地で多数の火災が発生するため、消防活動が分散される

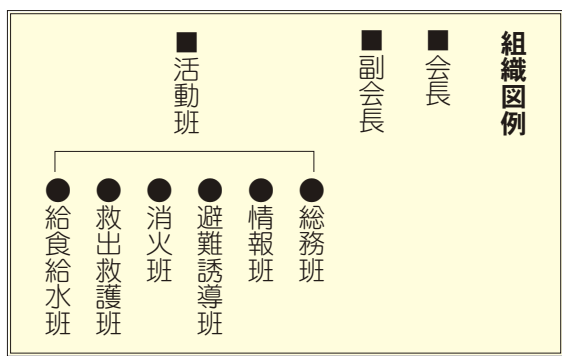
○停電や断水により、防災活動に支障が起きる

このようなとき、被害を最小限に食い止めるには、地域住民が協力・団結し、組織的に行動することが大切になってきます。

## 自主防災組織の 結成方法

自主防災組織は、地域の住民が組織結成に合意し、規約、組織、活動内容を定めることで設置することができます。市や消防署に許可申請や届出などの手続きを行う必要はありません。しかし、防災活動を行うには、市や消防機関との連携が必要なため、市や消防署に組織の結成を知らせておくことが望ましいです。

組織は、広報区や広報委員区ごとに設置もできますが、各地域の現状に応じて、複数の広報区で設置することもできます。



# 自主防災組織 平常時の活動

災害に対する地域ごとの問題点を検証し、被害を防ぐために必要なこと、必要なものを準備しましょう。

### 危険個所の把握



●自分たちの住んでいる地域や職場・学校のある地域が、災害に対してどのような弱点があるのか具体的に把握しておくことが重要です。

- がけ地・急斜面の裏山を背負った地域・河川や谷沿いの地域・ため池やダムの下流域・木造家屋の密集地域・避難場所から遠い地域など地域の実情を踏まえて防災計画をたてましょう。
- 地震・風水害・大規模火災などの発生を想定して、「防災カルテ」や「防災マップ」を作成し、把握した情報をまとめると有効です。

### 防災訓練

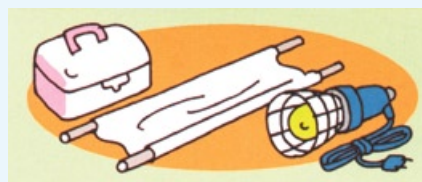
- 実際に災害が発生したとき、とっさに適切な行動をとるのは難しいものです。いつでも災害に応じられるように、日ごろから訓練を行い、防災活動に必要な技術を身をもって覚えることが大切です。
- 地域によって、津波の危険性が高かったり、土砂崩れのおそれがあったりと災害の危険性は異なります。地域の特性にあった訓練を行いましょう。

### 災害時要援護者への対応

- 災害時、自分の生命・安全の確保が困難で、何らかの支援を必要としている「災害時要援護者」が避難する際の援助方法などを確認しておきましょう。
- 「災害時要援護者」には、高齢者、手足が不自由な傷病者、障害者、妊婦、乳幼児、言葉に不慣れな外国人などがいます。  
※要援護者のハンディの内容や程度によって支援方法も異なりますが、プライバシーへの十分な配慮が必要です。

### 防災資機材の整備・備蓄品の管理

- 災害時、防災活動を行うために必要な資機材を選んで備蓄し、すぐ使えるように整備・点検しておくことが大切です。
- 防災資機材にはメガホン、ヘルメット、消火器、担架、救急医療道具、油圧ジャッキなどがあります。



# 自主防災組織 災害時の活動

災害時には、地域住民が協力して行う自主防災組織の活動が大きな役割を果たします。

## 情報の伝達

- あらかじめ災害情報や避難勧告など伝えなければならない内容や情報収集担当者を地域ごとに決めておきましょう。
- 担当者は、地域内の被害状況や避難状況をいち早く収集し、自主防災組織の責任者へ連絡しましょう。
- 収集した情報は、市や地域住民に伝達し、正しい情報を共有できるようにしましょう。



## 初期消火

- 初期消火は、天井に火が燃え移るまで(出火から3分程度)が限度です。天井に火が燃え移ると、あっという間に火は燃え広がります。無理をせず、すぐに避難しましょう。
- 消防隊の到着後は、消防隊の指示に従いましょう。



## 集団避難

- 一時集合場所に集まり、避難誘導を行います。(要援護者の避難も補助します。)
- 状況に応じて、最も安全な経路で避難しましょう。
- 避難場所では、人員の点呼と無事を確認します。



## 救出援護

- 建物の倒壊や落下物などによって負傷者が出た場合、軽傷者は、できるだけ自主防災組織で手当てをしましょう。

## 避難所への給水・給食

- 電気、水道、ガスの供給の停止や食糧不足に備え、日ごろから各家庭に最低3日分の食糧や水を備蓄するようにしましょう。
- 自主防災組織としても食料品やろ水器、鍋、燃料などを備蓄しておき、必要に応じて、炊き出しなどを行います。

今月の広報紙と併せて「防災のしおり」を配布しています。防災対策の参考として活用してください。また、本庁・中山・双海各地区ごとの防災マップも記載されていますので、災害が発生したときの避難場所などを確認しておきましょう。



**防災力は  
地域コミュニティから**

良いコミュニティづくりを推進することは、地域の防災力を高め、安全で住みやすい地域づくりにつながります。平常時から近所の住民同士が交流をもち、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と意識することが大切です。皆さんのお住まいの地域でも自主防災組織の結成に向けて動き出してみませんか。

■問い合わせ 総務課防災担当(内線506)へ。